

山行NO 山行NO. 1816-1
日時 2019.04.18(木) 無風快晴高温
山域 越後駒ヶ岳(2002.7m)
コース 石抱橋発5:30-林道取り付間違え戻る5:45-長い林道-柳沢(尾根取り付)6:16-1064m峰7:36-道行山8:35-小倉山トラバース10:00-最高到達点・標高約1550m10:40-滑降-道行山11:54-林道13:07-石抱橋14:01
標高差 上り 石抱橋約750m~引き返し点約1550m=約800m
下り //

越後駒は一流の山だった

「今月」二度目の越後駒だった。情熱はあった。
前は4月4日。意気込んで来たが、寒の戻りで季節外れの大雪。地元の方は「1m積もった」と話していた。石抱橋から潔く帰った。
そして今回。天気は良かった。橋から駒が大きかった。既に3名先行。北の又川に沿って進んだが、実はこのルートは間違いだった。橋の先で林道に行くのが正解だった。20分程ロスした。雪が締まっていたので、スキーは背負った。
ただ、前日のスキー跡はカチカチで怖かった。特に崖の上の狭い場所のトラバースが悪かった。



4月4日



4月17日



石抱橋から駒ヶ岳



天気は良い

滑落すれば10m下の川にドボン。嫌なところだった。

小一時間で柳沢に出る。

右折して尾根に取りつく。物凄い急登。道行山まで標高差500mはキツイ。

標高1064m峰で展望が開け、正面に純白の駒ヶ岳が見事だった。しばし感動。

目を凝らすと先行した2名が道行山の急登で喘いでいた。我々は壺足で上る。

最低コルの部分だけ少し雪が切れていた。

下から2名上ってきて抜かされた。彼らはシールで上っていた。この程度の斜面をシールで上れなければ時間が掛る。

ようやく道行山手前からシールで上る。ただ、ピークから少し下るので、また壺足になる。慣れた方は、そのまま下るようだ。要するに、あんなこんなで、ヘボは兎に角時間が掛る。



小倉山に向かう。気がかりだった尾根の「雪割れ」はなかった。

地元の「みちぐさ山の会」Mさんの情報では、「雪が少ない」だったが、里と山は降雪量が違うようだ。3月中旬からの「寒の戻り降雪」が大きかったようだ。

天気は良かった。風もない。それ故に非常に暑かった。汗がガンガン流れる。暑さに弱い私は、徐々に疲労が増していった。

小倉山はピークを踏まないで、南をトラバースする。頭上には大きな雪庇があった。あんなものが崩れたらひとたまりもないだろう。思わず急ぎ足になってしまう。

この辺りで2名に抜かされた。我々が特に遅いとは思わないが、これで4名抜かされた。先の方は、結局6時に出て、頂上に11時半着いたという。5時間半である。

当然、下りも早く14時前に下り切った。年蓮は52歳だった。今回、何人かに年齢を聞いたが、「島田しらびそ山の会」の方が、最高齢で62歳だった。70代はいなかった。そもそも70代で

来るか。しかし、こんにちまでさほど年齢は意識していなかったが、今日は違った。私も気が付いたら、完全な「ジジイ」になっていたのだ。

小倉山をパスしたがピッチは上がらない。過呼吸で胸が苦しかった。最近、特に「ゼ～ゼ～ハ～ハ～」が苦しかった。飲みすぎ??!!もあるか。

上部を見ると駒の小屋手前の急登を数人が蟻のように張り付いていた。「あんな所を上れるだろうか」いや、上れても「滑降が出来るだろうか」一抹の不安がよぎった。



道行山付近



小倉山付近

天気は相変わらず良かった。ますます暑かった。モーレツに暑かった。体力はドンドン失われた。越後駒は標高約2003m。いつも訓練している、富士山・ニッ塚上塚の標高とさほど変わらない。なのに、この苦しさは一体なんなのだろう。

また一人抜かされた。昔は抜く事はあっても、抜かされる事はなかった。

夏の百草ノ池付近に達した。標高は約1550m。橋から約800m上った。頂上まで、まだ450m弱ある。あと2時間以上掛るだろう。時間は10時半。タイムリミットは12時。今の調子では、とても無理な時間だった。

非常に残念だったが、今回はここまでとした。「越後駒は一流の山」「もっと若い時に来るべきだった」「70歳代の人間が来る山ではない」と痛感した。



標高1500m付近の滑降



下から3名上って来た。今日、最後のパーティーだった。

1名はスプリット・ボードで黒人さんだった。雪山で黒人さんは珍しい。

愛想が良い方だった。

滑降は早い。完全なザラメではなかった。やや重い感じ。

巨大雪庇の小倉山をパスして、最低コルから道行山を上り返す。上れば滑降。しかし、急な雪壁はスキーを脱いた。これではますます時間が掛る。要するに技術がない。



柳沢

壁下の木陰で何処かのオジサンが休んでいた。

「今日は、お終い」といっていた。ここまで上り、越後駒を愛でるだけでもいいだろう。我々も大休止。本日、休憩らしい休憩は初めてだった。

快適に下って行くと、後ろから早くもトップグループが下って来た。勿論、頂上は落とした。トップは、県連のTに似た口調の前出の52歳の若い衆。ほかに2名。後の2名は「サイコーにスキーが上手い」とT似がいていた。

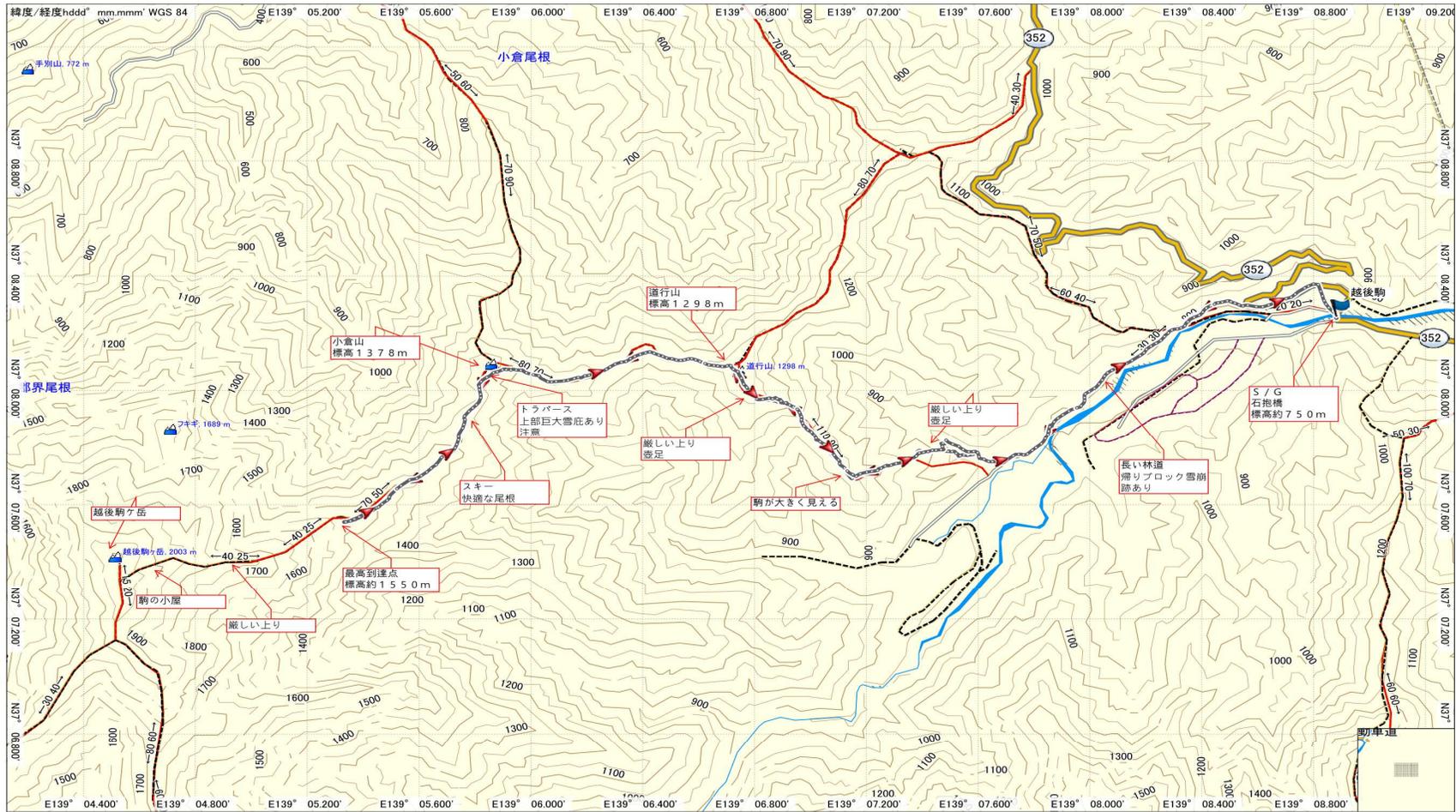
T似は前回40歳の時、上ったという。コースを知っていると、また状況は違うだろう。スキーの上手い2名も50歳代だろうか。



長い林道を進む。最後は林道滑りを楽しんだ。

今日、駒に向かったのは12~3名程度。ほとんどが帰って来た。時間は14時。6時に出て往復8時間。通常、往復10時間といわれるコース。皆、速く強い。

「技術・体力・精神力」が備わっている者のみ許される山。越後駒は、本物の山だった。



2019/04/20 10:15:29

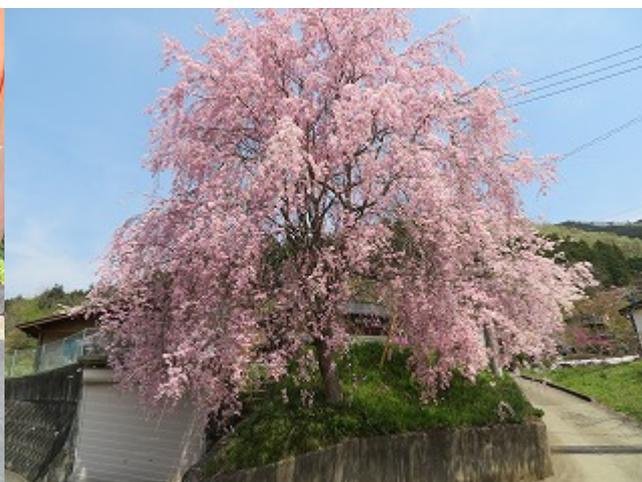


湯之谷の里は春爛漫

山行NO 山行NO. 1816-2
 日時 2019.04.19(金) 快晴
 山域 山梨・石老山(702m)
 コース 篠原登山口発 11:18-石老山 12:20-篠原 13:48
 標高差 上り 篠原約325m~石老山702m=約377m
 下り //

文・加藤 写真・後藤

今回も「おまけの山」は何処か？と地図とスマホで検索した。
 結果、中央道八王子IC下車の標高702mの「石老山」に決めた。ICから降りて相模湖をかなり大きく巻き、日蓮、牧野、中尾、篠原地区と里道を走る。
 桜が何処も満開で、それにレンギョウ、三つ葉つつじが色を添えてこの時期一番ローカル道が目に楽しい。登山道は篠原地区の廃校の脇にある。その手前の空き地に車を止め(@500の有料と書いてあったが、お金を入れる箱がない為無賃)た。行動食の調達はしてなかったので、取りあえずある物をザックに詰め込み出発。



朝から暑い。里の道は春爛漫。見事な桜に身体の疲れも吹っ飛ぶ。
 5月に咲く・・・というイメージがあった山吹も満開だ。
 CLが突然「七重八重花は咲けども山吹の実のひとつだになきぞ悲しき」と大田道灌の歌を口ずさみながら、詩の解釈をしてくれた。えーっ！
 CLってもしかして無骨な山男ではなくて詩人だったの？意外な一面があることに見直した。(ま、ピアノも弾くけどね~) 農道から山道に入ると、両脇に稚児ユリが凄い！
 更に進むと木の根がむき出しになった痩せ尾根の急登に変わる。私的には昨日あれだけの山をやって

きて身体が疲れているから今日は休みたかったのにな・・・と「牛に引かれて善光寺参り」登山を悔やむ。

脹脛が「もお、イヤよお～」と叫んでいるみたいだ。低い山ほど急登が多かった事を忘れていた。稚児ユリからイチリンソウの群落に変る頃、チョットした平坦地に立派な祠があった。「頂上まであと800m」という看板がありやれやれとホッとすする。

「平地では800mなんて直ぐだけど山では意外と長いんだよねえ～」と私。正にその通り、歩けども登れども見えるのはCLの足元ばかり(其れ位の急登)で先は痩せ尾根の続きが見えるだけだ。ハァ～、溜息をつきながらその辺で拾った棒と日傘用に持ってきた傘の両方を杖にしてひたすら登る。それで発見した。杖は1本より2本の方が楽だという事を。

土留めの丸太の階段を登りやっと頂上着。石老山という由来からくる石はあるのか？何もない。少しばかりの平坦地にテーブルと椅子が設置してあり東海自然歩道の看板があり、土留めの丸太の階段を登りやっと頂上着。石老山という由来からくる石はあるのか？



何もない。少しばかりの平坦地にテーブルと椅子が設置してあり東海自然歩道の看板がある。私はこの数年間、東海自然歩道を大阪府の美囊から歩いて、あとは東京都の高尾山を残すのみとなっていた。すると此処の尾根上のルートは既に歩いていたのか。覚えがないのが悲しいが、山梨県から此処までのルートはとても素晴らしかったという記憶だけは頭に残っている。

残り物で腹を満たす。頂上にいた先客は、昨日、谷川岳・天神尾根で最後の雪を楽しみ、今日は雪なしの山で身体を癒していると話していた。同じような考え方をするもんだねと笑ってしまった。帰りの下りは早い。とんとん拍子で下ると親子連れかワラビ取りに登ってきた男性にあった。今日は登り1時間20分、下り1時間コースの山だったけれど、前日の厳しい山のあとでは標高が低くても身体にはとてもきつい山だった。でも過ぎてみれば、何時でも「いい山だったな」と思うところが怖い私なんです。

(了)

